

No.1 哺乳びん・乳首の消毒剤（タブレット型）による喉頭狭窄

事例	年齢：0歳 9か月 性：男	
傷害の種類	誤嚥	
原因対象物	哺乳びん・乳首の消毒剤（タブレット型） 試供品だったらしく、包装も簡単なものであったとの母からの情報。詳細は不明。	
臨床診断名	喉頭狭窄，食道入口部狭窄	
発生状況	発生場所	消毒剤は，自宅の台所の流しの下に哺乳瓶とともに入れておいた。
	周囲の人・状況	姉（当時2歳），母が気づいた時には，姉が哺乳瓶で遊んでいた。
	発生時刻	12月3日 時刻不詳
	発生時の詳しい様子と経緯	姉が消毒剤錠の封を切って錠剤を出し，それを本児の口腔内に入れた。その後，呼吸が苦しうになったため近医を受診し，口腔内洗浄を行ったあと入院となった。一時，呼吸状態は軽快し，経口摂取も良好となったため翌年1月5日に退院した。 1月20日に，再度，呼吸が苦しい状態となり，喉頭ファイバーにて下咽頭，喉頭部の狭窄を認めたため，2月8日に当科を紹介され，緊急入院した。
治療経過と予後	2月8日，緊急手術を施行（気管切開術，食道バルン拡張術）した。人工呼吸器は装着せず，栄養に関しては，初回手術時にNG tubeを挿入し，2月9日より経管栄養を開始した。 2月28日には，腹腔鏡補助下に胃瘻を造設し，食道バルン拡張術を施行した。3月3日には胃瘻からの注を開始し，体重は徐々に増加した。気管支鏡にて1週間に1回観察を行った。左側の梨状窩が癒着しているものの，声帯，食道入口部は充分に開いているため，3月14日より嚥下を開始した。3月29日には喉頭蓋癒着剝離を行った。 5月4日に退院し，以後，外来にてフォロー中である。現在，胃瘻は閉じたが，気管切開は残存している。	

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 口に入るサイズのものであれば，上の子どもが乳児の口にモノを入れることはよくある。
2. 認知症の人がタブレットをドロップと間違えて飲み込むこともありえる。
3. 今回のケースでは，粘膜傷害を引き起こした物質は何であったか同定する必要がある。それがはっきりすれば，その物質を除くか濃度を下げる，あるいは粘膜傷害を起こさない代替品に変更する必要がある。
4. 幼児が開けにくいパッケージにする必要がある。